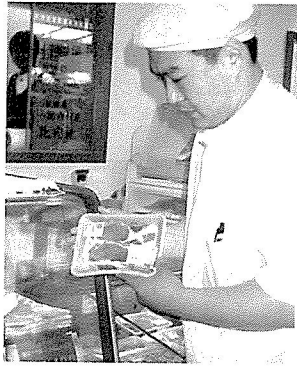


ユビキタスシステム導入でトレサビ開始

TOKYO X ASSOCIATION



ラベルの貼られたTOKYO Xの肉を持つ篠田氏

10月29日、TOKYO X ASSOCIATIONは、他店に先駆けて、日本橋三越本店（東京都中央区）において、トレーサビリティシステム

を導入した販売を開始した。

本システムは、生産段階での情報を流通段階を経て、消費者に開示できるシステムとして開発。また、近年言われている偽物対策としても期待されている。

冒頭の挨拶において、会長の植村光一郎氏は、「ユビキタスシステムによるトレーサビリティシステムの導入は、豚では初の試み。消費者の安心を得られるものと思う」と述べた。

TOKYO X ASSOCIATIONは、兼ねてより生産者団体であるTOKYO X 連絡会議とともにトレーサビリ

ティの確立に取り組んできた。今回の販売によって、これまでの努力が1つ実を結んだと言える。

具体的には、1パックにつき1枚、生産者のコードとQRコードが印字されたラベルが貼られており、そのコードをTOKYO Xのホームページ上の検索画面に入力することで、生産者や飼料、投薬などの生産情報が得られるというもの。QRコードからは、もう少し簡易な情報が得られるようになっている。

日本橋三越内で食肉販売を行う食品の二幸日本橋店ミートショップ店長の篠田宣昭氏は、「こうした試みは、食への安心感の向上のためにも良いPRになると思う。牛肉でもやってきているので、そうした経験を生かしてお客様にPRしていきたい」と語った。

生産者の見える商材が一堂に

フードセレクション2007

11月14日、北海道、七十七、群馬、常陽、千葉、八十二、北陸、静岡銀行、計8社主催の情報交換・商談会「フードセレクション2007」が東京国際フォーラム（東京都千代田区）で開催された。この会は昨年を引き続き2回目で、

今回は「地方からの新しい食の風」をテーマに、バイヤーと農畜水産生産者との橋渡しとなるべく開催された。出展数210企業・団体、来場者数約7,000名、4,000社を数え、昨年を上回る盛況ぶり、食品偽装などのニュースがあるなかで、

小売サイドの生産者の顔が見える安全な食材への関心をうかがわせるものとなった。

食肉関係では、銘柄豚、銘柄鶏の生産者・流通会社が出展しており、各ブースとも、地産地消を望むバイヤーからの引き合いが強かったという。

養豚からは、4社がそれぞれの銘柄豚や豚肉加工品を趣向を凝らしたブース展開を行った。太平洋ブリーディング㈱は「恵味の豚」

M型

実物大

フリマフレックス

豚耳標

新発売

実物大

S型

輸入 発売元 **サージミヤワキ株式会社** 〒141-0022 東京都品川区東五反田1-19-2
 ☎(03)3449-3711(代) FAX.(03)3443-5811